

2020年度事業報告

1. 会議

1.1 総会

第 48 回定時社員総会を 2020 年 5 月 29 日(金)にオンライン(Zoom)にて開催した。主要な議題は、2019 年度事業報告と収支決算報告、2020 年度事業計画と事業予算である。

1.2 諮問会

第 9 回諮問会を e-mail ベースで実施した。2020 年 4 月 24 日(金)に、学会ホームページに 2020 年度事業報告・決算報告と 2021 年度事業計画・収支予算書を掲載し、2020 年 5 月 11 日(月)までの期間、学会活動に関して幅広く諮問員に意見を伺った。

1.3 理事会および運営審議会

理事会を 3 回(第 117,118,119 回)、運営審議会を 2 回(第 27,28 回)開催した。総会・諮問会への提出議案、学会運営等について審議した。

1.4 賞選考委員会

第 25 回賞選考委員会を 2020 年 4 月 13 日に開催し、第 44 回レーザー学会業績賞(論文賞、進歩賞)及び奨励賞を審議した。また、第 40 回年次大会実行委員会が論文発表賞の選考結果を、第 12 回産業賞選考委員会が産業賞の選考結果を、賞選考委員会に報告した。

また、第 13 回産業賞選考委員会を開催し、第 13 回産業賞の選考を行った。

2. 事業, 行事

2.1 編集委員会および会誌出版

会誌「レーザー研究」を年 12 冊(第 48 巻 4～12 号および第 49 巻 1～3 号)、毎月中旬に発行した。このため、編集委員会を 12 回(第 481～492 回)開催し、企画編集、進捗フォロー、次号ゲラ刷りのチェック等を実施した。

2.2 研究委員会および研究会

研究委員会を 4 回(第 246～249 回)、研究会を 7 回(第 545～551 回)開催した。新型コロナウイルス流行等の影響により、予定されていた研究会のうち 4 回は中止となった。開催した研究会のうち、主催は 5 回、他学会との共催は 2 回であった。主催の研究会では資料「研究会報告」を作成し、参加者に販売するとともに、年間購入予約者に頒布した。

2.3 技術専門委員会

技術専門委員会は 17 件(継続 16 件、新規 1 件)を実施した。うち 7 件が年度末で活動を終えた。学会ホームページ上に各委員会の設立・継続にあたっての目的を明らかにし、賛同者を募り、学会内コミュニティ形成のための基盤作りに努めた。

2.4 学術講演会年次大会

第 41 回大会を、併設展示会”Laser Solutions 2021”と併せ、2021 年 1 月 18 日(月)～20 日(水)の平日に開催した。北九州国際会議場(福岡県北九州市)で開催予定だったが、新型コロナウイルス流行の影響により当会初のオンライン開催に変更した。シンポジウムは 11 テーマを企画した。参加者は 638 人、講演数は 378 件であった。

2.5 国際交流

“Optics & Photonics International Congress (OPIC) 2020”を、2020 年 4 月 20 日(月)～24 日(金)の期間、パシフィコ横浜(横浜市)にて開催する予定だったが、新型コロナウイルス流行の影響により開催形態が変更となった。学会が主催する専門会議は下記の通り対応した。

- ・Advanced Lasers and Photon Sources Conference (ALPS): 国内の大学などで会議を開催し、Zoom によるストリーミング配信を実施
- ・INTERNATIONAL CONFERENCE ON HIGH ENERGY DENSITY SCIENCES (HEDS): 発表者によりアップロードされたプレゼンテーションビデオを YouTube と Youku で限定公開として配信
- ・Optical Wireless and Fiber Power Transmission Conference (OWPT): 参加登録した発表について、予稿集の発行を持って会議の成立とした

学会主催で”Asia-Pacific Laser Symposium (APLS)”を2020年10月12日(月)～15日(木)の期間、函館国際ホテル(函館市)にて開催する予定だったが、新型コロナウイルス流行の影響により延期した。

2.6 レーザーセミナー

(1) レーザー特別セミナー

2020年4月22日～24日に開催予定だった“レーザーEXPO2020”が中止になったため、開催を中止した。

(2) レーザー安全セミナー

2020年度よりレーザー安全セミナーを開始した。2020年11月11日～12日に開催された“光とレーザーの科学技術フェア 2020”において同時開催する予定だったが、新型コロナウイルス流行の影響を鑑み、オンラインに変更して2020年11月27日に実施した。77名の受講者が参加した。

(3) レーザー夏の学校(第27回レーザー夏の学校実行委員会、レーザー学会共同主催)

光・レーザー分野の研究に携わる学生及び若手研究者の交流、研究意識向上を目的として、当学会として教育及び学術交流の観点から本行事に支援を行った。第27回レーザー夏の学校は2020年9月19日～20日の期間、オンラインにて開催され、2010年以降最多の88名の参加者があった。

2.7 展示会

(1) レーザーEXPO 2020

レーザー機器の展示会“レーザーEXPO2020”は新型コロナウイルス流行の影響に伴い中止となった。

(2) Laser Solutions 2021

第41回年次大会において、レーザー機器の展示会“Laser Solutions 2021”をオンラインで併催し、5社の出展があった。

2.8 表彰, 認定, 賞推薦・助成推薦

(1) 表彰

第44回レーザー学会賞(業績賞・論文賞, 業績賞・進歩賞, 奨励賞), 学術講演会第40回年次大会論文発表賞および学会活動に貢献のあった者の表彰を行った。また、レーザー関連技術及び事業において顕著な功績のあった者にレーザー学会産業賞(優秀賞, 奨励賞, 貢献賞)の表彰を行った。新型コロナウイルス流行の影響により表彰式は中止となったが、授賞結果を学会誌や学会ホームページ等に掲載した。

(2) 名誉会員・上級会員・フェロー認定

名誉会員候補者は称号審査委員会、第117回理事会で審議され、第48回総会で承認された。上級会員/フェロー候補者は称号審査委員会で審議され、第117回理事会で承認された。認定された会員には、他薦の場合は本人同意を得たうえで、認定書を送付し、結果を会誌およびホームページに掲載した。

◇名誉会員認定者: 1名

◇フェロー認定者: 2名

◇上級会員認定者: 4名

(3) 賞推薦, 助成推薦

レーザー学会会員に各種学術賞, 研究助成案件を広く案内した。学会から推薦した結果、今年度は以下の方が受賞した。

◇第11回日本学術振興会育志賞(慶應義塾大学・藤井瞬氏)

2.9 支部活動の展開

支部活動の活性化による地域の状況に応じた会勢拡張と位置付けて、国内6支部にて、地域の会員へのレーザー関連学術情報提供サービス推進のため、単独および他学会支部との共催によるセミナー、研究会、講演会開催、情報交換、支部表彰等の活動を実施した。

2.10 関連学協会等との連携および協力

他学会、研究団体および関連業界との共催、協賛、後援による研究会、講演会等の開催を通じて、関係団体との連携、協力を推進した。日本光学会・応用物理学会フォトニクス分科会と、双方の学術講演会でジョイントシンポジウムを実施した。日本工学会には阪部周二副会長が監事として参画した。

3. その他

3.1 会員動向(年度比較)

賛助口数は前年度実績より若干増加した。会員数は前年度実績から大きな変化は見られない。また、会員数の月別推移から、年次大会の影響が大きいことがわかる。会員数に民間が占める割合は、昨年度と変わらず3割強である。光・レーザー応用分野の幅広い取込みが課題である。

2020, R2 年度(2021年3月)

個人会員 1,214 名(正会員 1,088 名、学生会員 120 名、名誉会員 6 名), 賛助会員 97 社(121.75 口)

(参考)

2019, H31/R1 年度(2020年3月)

個人会員 1,269 名(正会員 1,132 名、学生会員 132 名、名誉会員 5 名), 賛助会員 93 社(117.75 口)

2018, H30 年度(2019年3月)

個人会員 1,250 名(正会員 1,126 名、学生会員 119 名、名誉会員 5 名), 賛助会員 92 社(116.75 口)

2017, H29 年度(2018年3月)

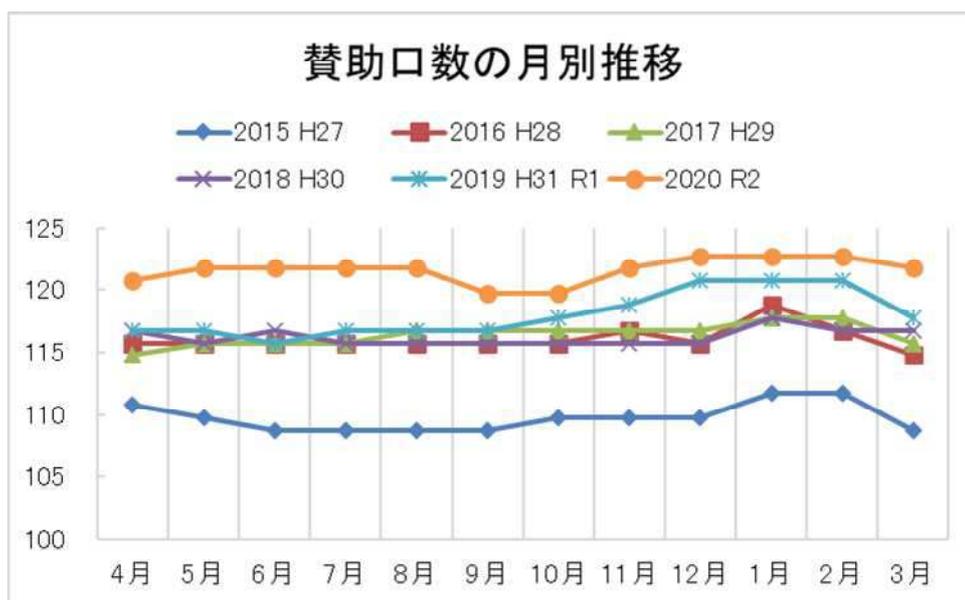
個人会員 1,262 名(正会員 1,139 名、学生会員 119 名、名誉会員 4 名), 賛助会員 90 社(115.75 口)

2016, H28 年度(2017年3月)

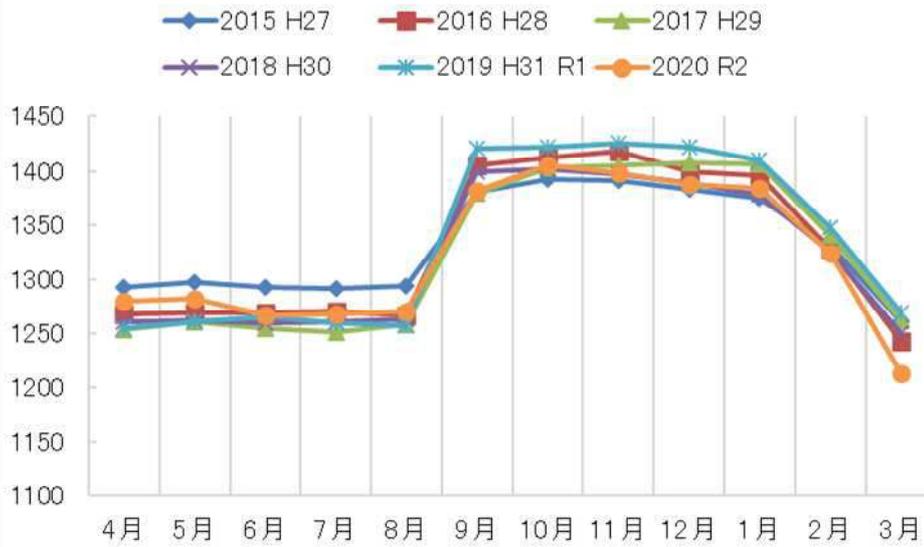
個人会員 1,243 名(正会員 1,128 名、学生会員 111 名、名誉会員 4 名), 賛助会員 88 社(114.75 口)

2015, H27 年度(2016年3月)

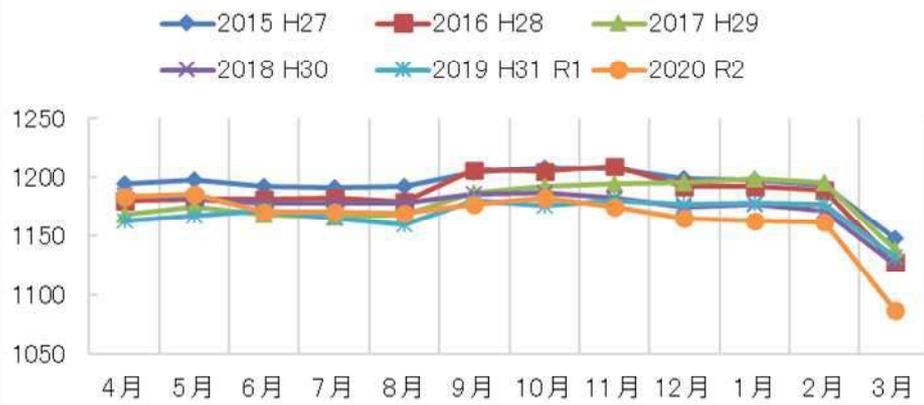
個人会員 1,261 名(正会員 1,148 名、学生会員 108 名、名誉会員 5 名), 賛助会員 85 社(108.75 口)



全会員数推移



正会員数推移



学生会員数推移

